

問1 東大寺南大門に安置されている、運慶や快慶らによって制作された彫刻作品について、その特徴を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2022年 大分県公立入試 類似）

1. 筋骨隆々とした肉体美や激しい動きを表現した、写実的で力強い金剛力士像
2. 極楽浄土の様子を視覚化するために制作された、優雅で穏やかな表情の阿弥陀如来像
3. 禅宗の教えに基づき、精神的な静寂を表現するために彫られた簡素な木像
4. 貴族の権威を象徴するために金箔をふんだんに使用した、装飾性の高い菩薩像

問2 鎌倉幕府を開いた源頼朝が、奥州藤原氏を攻め滅ぼした歴史的背景として、最も適切な説明を選びなさい。（2019年 滋賀公立入試 類似）

1. 頼朝と対立して平泉へ逃れた弟の源義経を、奥州藤原氏が保護したため。
2. 奥州藤原氏が京都の朝廷と密かに結び、鎌倉幕府を打倒する計画を立てたため。
3. 北上川流域で産出される金の独占権をめぐり、幕府と朝廷が対立したため。
4. 奥州藤原氏がモンゴル帝国の侵攻に備えるための軍役に拒否したため。

問3 鎌倉時代後半、二度にわたる元軍の侵攻（元寇）を退けた後、幕府の支配体制は揺らぎ始めました。戦いには勝利したものの、幕府に仕える「御家人」の生活が困窮し、不満が高まった理由として最も適切な説明を選びなさい。（2018年 秋田県公立入試 類似）

1. 防衛のための戦いであったため、幕府は恩賞として御家人に分け与える新たな土地を確保できなかった。
2. 元軍に勝利したことで宋との貿易が途絶え、物資が不足して急激なインフレーションが起きた。
3. 幕府が御家人よりも足輕を優遇する軍制改革を行ったため、伝統的な武士の特権が失われた。
4. 元軍との戦いにおいて、幕府が御家人に領地の半分を返還させる「徳政令」を強制的に出した。

問4 鎌倉時代に栄西が伝えた臨済宗が、当時の社会や文化に与えた影響についての説明として、最も適切なものはどれですか。（2021年 大分県公立入試 類似）

1. 幕府の保護を受けて発展し、のちの茶の湯などの日本文化の形成にも大きな影響を与えた。
2. ひたすら座禅を組む「只管打坐」を重視し、主に地方の武士や農民の間に広まった。
3. 山の中で厳しい修行を行うことを重視し、平安時代の貴族の信仰を集めた。
4. 念仏を唱えれば救われると説き、戦乱で苦しむ民衆の間に急速に浸透した。

問5 禅宗は、念仏や祈祷よりも「自分自身を見つめ、精神を鍛える」ことを重視しました。この宗教が当時の武士に広く受け入れられた理由として、最も適切な説明はどれですか。（2026年 福島公立入試 類似）

1. 念仏を唱えるだけで救われるという簡潔な教えが、多忙な武士の生活に適していたから。
2. 厳しい修行を通じて自己の精神を律する姿勢が、生死をかけて戦う武士の気風に合っていたから。
3. 現世での利益や病氣平癒を祈る呪術的な側面が、戦場での加護を求める武士に好まれたから。
4. 華やかな建築や美術を重視する教えが、新興勢力である武士の権威を高めるのに有効だったから。

問6 1221年に後鳥羽上皇が鎌倉幕府を倒そうとして兵を挙げ、幕府軍に敗れた出来事について、この乱のあとに幕府が朝廷を監視し京都の警備を行うために設置した役職と、乱の名称の組み合わせとして正しいものを選びなさい。（2025年 愛媛公立入試 類似）

1. 承久の乱 — 六波羅探題
2. 承久の乱 — 問注所
3. 平治の乱 — 六波羅探題
4. 平治の乱 — 評定衆

問7 1185年、源頼朝は対立した弟の源義経を捕らえることを名目に、朝廷から守護と地頭を設置する権限を認めさせました。これら守護と地頭が配置された場所と役割の説明として、最も適切なものはどれですか。（2024年 山形公立入試 類似）

1. 守護は国ごとに置かれて軍事・警察の役割を担い、地頭は荘園や公領ごとに置かれて年貢の徴収などを行った。
2. 守護は荘園ごとに置かれて裁判の役割を担い、地頭は国ごとに置かれて行政全般の管理を行った。
3. 守護は朝廷のあった京都に置かれて貴族を監視し、地頭は東国の有力な御家人の領地にのみ限定して置かれた。
4. 守護と地頭はともに九州沿岸に置かれ、外国からの侵略に備えるための軍事拠点としての役割を担った。

問8 上杉景勝が活躍した16世紀後半は、戦国時代から天下統一へと向かう激動の時期にあたります。歴史の大きな流れにおいて、この時期を含む「中世」という区分が終わり、江戸時代を中心とする次の区分へと移り変わる境界が意識されます。中世の次に来る、江戸時代を中心とした時代区分を選んでください。（2024年 山形公立入試 類似）

1. 近世
2. 近代
3. 現代
4. 原始

答え合わせ・解説

問1	答え 1 筋骨隆々とした肉体美や激しい動きを表現した、写実的で力強い金剛力士像	鎌倉時代の彫刻は、平安時代後期の優美な様式とは対照的に、写実的で力強い表現が主流となりました。運慶・快慶らの慶派が制作した金剛力士像は、浮き出た血管や筋肉の躍動感が克明に表現されており、武士が政治の実権を握った時代の活力を象徴しています。
問2	答え 1 頼朝と対立して平泉へ逃れた弟の源義経を、奥州藤原氏が保護したため。	源頼朝は、自分と対立した弟の源義経を奥州藤原氏が受け入れたことを口実に、奥州（現在の岩手県など）へ出兵しました。これにより、三代にわたって栄華を誇った奥州藤原氏は滅亡することとなりました。
問3	答え 1 防衛のための戦いであったため、幕府は恩賞として御家人に分け与える新たな土地を確保できなかった。	鎌倉幕府の主従関係は、将軍が領地を保証・支給する「御恩」と、御家人が軍役を果たす「奉公」で成り立っていました。しかし、元寇は外国からの侵略を阻止する防衛戦であり、勝利しても奪える敵地がなかったため、莫大な戦費を負担した御家人に十分な恩賞を出すことができませんでした。これが幕府への忠誠心を低下させ、倒幕への動きに繋がりました。
問4	答え 1 幕府の保護を受けて発展し、のちの茶の湯などの日本文化の形成にも大きな影響を与えた。	臨済宗は師徒の問答を重視するスタイルが武士の気風に合ったため、幕府の有力な支援を得て寺院が整備されました。栄西が持ち帰った茶の文化は、のちに禅の精神と結びつくことで、室町時代の東山文化における茶の湯の発展など、日本の伝統文化の重要な基盤となりました。
問5	答え 2 厳しい修行を通じて自己の精神を律する姿勢が、生死をかけて戦う武士の気風に合っていたから。	禅宗は座禅によって自らの力で悟りを開こうとする「自力」の教えです。このストイックな修行形態や自己を律する精神性が、武芸の鍛錬や戦場での死生観と結びつき、北条氏をはじめとする多くの武士から支持されました。これが後の武士道精神の形成にも影響を与えています。
問6	答え 1 承久の乱 — 六波羅探題	源実朝の暗殺により源氏の将軍が途絶えた好機を狙い、後鳥羽上皇が倒幕の兵を挙げたのが承久の乱です。勝利した幕府は、二度と朝廷が反乱を起こさないよう監視を強化するため、京都に六波羅探題を設置しました。平治の乱は平安時代末期の出来事であり、問注所は訴訟を扱う機関です。
問7	答え 1 守護は国ごとに置かれて軍事・警察の役割を担い、地頭は荘園や公領ごとに置かれて年貢の徴収などを行った。	源頼朝は、平氏打倒の功労者でありながら対立することとなった弟の源義経を捜索・逮捕することを口実として、朝廷に守護・地頭の設置を認めさせました。守護は諸国（国単位）に一人ずつ置かれ、国内の武士の統制や軍事・警察の権利を行使しました。地頭は全国の荘園や公領（国衙領）ごとに置かれ、土地の管理や年貢の徴収、警察の補助を担いました。これにより幕府の支配力が全国へ及ぶ基礎が築かれました。
問8	答え 1 近世	日本の歴史学では、織豊政権（安土桃山時代）から江戸時代までを「近世」として区分することが一般的です。16世紀末から17世紀初頭にかけて、中世的な割拠状態から統一的な国家体制へと社会構造が大きく変化したことを重視し、中世から近世への移行期として捉えられます。